校内研究の概要

１　研究主題・副題

確かな読みの力を身に付けた児童の育成
～主体的・対話的に文学的文章を読み取る授業実践を通して～

２　主題設定の理由

（１）今日的教育課題から

予測困難なこれからの時代を生きる児童には，自分のよさや可能性を認識しながら，他者を尊重して協働し，未知の課題を解決しながら豊かな人生を切り拓くことや，持続可能な社会の創り手になることが求められている。平成２９年に告示された，小学校学習指導要領には，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して「生きる力」を育むことが明記された。国語科においては，「言葉による見方・考え方」を働かせることとして，「自分の思いや考えを深めるため，対象と言葉，言葉と言葉の関係を，言葉の意味，働き，使い方に着目させて捉え，その関係性を問い直して意味づけること」が示された。

そこで本研究を通して，「生きる力」を育む上で核となる「言語の教育としての国語科指導」を一層充実させ，児童に確かな読みの力を身に付けさせることを目指し，本主題を設定した。

（２）指導上の課題から

これまでの「読むこと」に関する指導を振り返ると，以下のような指導上の課題が明らかになった。

＜教材研究に関する課題＞
・教材研究を通して物語文の構造と内容を把握しようとはするものの，その解釈が適切かどうか考えたときに迷いが生じてしまうこと。
・文学的文章のどの場面を重点的に取り上げ，指導するべきかを判断すること。
・解釈の根拠を文中から探させてから，どのように互いの読み筋に目を向けさせるかに迷いが生じてしまうこと。

＜授業実践に関する課題＞
・対話的に学ばせる場面で対話の方向性がずれてしまった時や，話合いが滞ってしまった時に，論点を修正するために適切な助言をすること。
・読み取ったり想像したりしたことを意図的に指名して発言させ，適切に評価したり類型化したりしながら学びを深めていくこと。
・児童のノートを見取り，机間指導をしながら記述内容を評価し，意図的に発言させることを通して学び合いの質を高めさせること。

このような指導上の課題を受け，本校では協働的な授業づくりにおいて複数の職員で指導と評価の計画を組み立てたり，評価規準を定めたりしていくことを重視しながら，物語文の解釈を深めていく必要があると考えた。また，主体的・対話的に文学的文章を読み取る授業を通して，互いに指導の手立てを評価・共有し，実践を通して得られた成果・課題を日常的に授業に生かしていくことを目指し，本主題を設定した。

（３）学校教育目標から

本校では学校教育目標を「命を大切にし　夢や志をもって　たくましく生きる児童の育成」，目指す児童像を「自ら学ぶ子ども」「思いやりのある子ども」「心と体をきたえる子ども」と設定している。自ら学ぶ子どもの育成においては，一人一人に学ぶ楽しさや喜びを味わわせることと，学び合ったり協力したりする活動に取り組ませることを重視しながら確かな学力を育てる教育活動の具現を目指している。

本研究において，協働的な授業づくりを通して主体的・対話的で深い学びの視点に立って授業改善を図り，他者と関わるための力の核となる国語科の力を育成していくことが本校の学校教育目標を具現化する上で有効であると考えた。

（４）児童の実態から

令和４年度４月に実施した全国学力・学習状況調査の国語科における本校児童の正答率は全国平均の正答率とほぼ同等の結果が得られた。「知識及び技能」のうち，「（１）言葉の特徴や使い方に関する事項」については全国平均の正答率を上回る結果となり，これまでの表現の効果を味わわせるための指導の工夫の成果が現れた。一方，「思考力，判断力，表現力等」のうち，「A話すこと・聞くこと」「C読むこと」においては全国平均の正答率を下回る結果となった。

児童の解答状況を設問別に分析すると，目的に応じて文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることや，中心となる語や文を見付けて要約したり，論理的に表現したりすことを苦手とする児童が多くいることが明らかになった。選択式ではなく，記述式の問題においては書き出しの言葉に迷ったり，何を問われているのかを判断できなかったりして無解答のままの児童も複数見られ，このことは標準学力調査でも同様の傾向が認められている。

学習状況については，「新聞を読むこと」や「平日に１時間以上の家庭学習に取り組むこと」の項目における乖離が大きく，授業以外のところで主体的に学ぶ児童が少ない傾向が明らかになった。課題解決までの見通しをもち，様々な手段や方法で課題解決に迫ろうとする意欲がやや低い傾向も見受けられ，どの学年においても教師からの指示や教師から示される活動の手順を待って学習活動に取り組む児童が目立っている。

これらの結果を受け，本研究では国語科の文学的文章を読む学習において，宮城県教育委員会による学力向上に向けた「５つの提言」並びに気仙沼市教育委員会による「気仙沼スタンダード」の下で指導の手立てを工夫し，主体的・対話的に文学的文章を読み，読むことを楽しむ児童の育成に迫りたいと考えた。

以上４つの観点から本研究主題を設定した。

３　研究主題・副題の捉え

研究主題について	
確かな読みの力	・「言葉や文章を正確に音読する力」 ・「文学的文章の全体像を適切に捉える力」 ・上記の力を培った上で，文学的文章の構成の工夫や表現の効果を味わい，自分の表現に生かすこと。
副題について	
主体的・対話的	・児童が課題意識をもつ友達や教師等の他者と関わり，自分一人では気付かないような考えに触れたり，自分の思考を深めたりすること。
読み取る	・言葉の意味，働き，使い方に着目して文学的文章を読み，物語の全体像または細部を適切に捉えること。

４　研究目標

確かな読みの力を身に付けた児童を育成するための指導の在り方を，授業実践研究によるＰＤＣＡサイクルを機能させることを通して明らかにする。

５　研究の視点

確かな読みの力を身に付けた児童の育成に迫るために，国語科の内容Ｃ「読むこと」の領域において，次の３つの視点に沿った手立てを工夫しながら学習活動を展開する。

【視点１】学習活動の工夫

ア　多様な考えを引き出し，学びを一層深めさせるために，児童の思考や認識を揺さぶるような発問を工夫する。

イ　物語の世界を味わわせるために，学習過程の中に音読に取り組ませる時間を確保し，繰り返したり焦点化したりしながら音読させる。

ウ　学びの足跡となるノートを作成させるために，児童が読み取ったことや想像したことを十分に書かせる。更に，板書は端的に行い，児童の思考を整理することで，思考の流れや課題解決までのプロセスを可視化する。

エ　文学的文章の内容の大体を捉えさせるために，中心人物の変容に着目して読み取らせる。

オ　表現の効果を味わわせるために，作者が文中でなぜその表現を使ったのか，その表現を使うことでどんな効果が現れているかを話し合う時間を設ける。

【視点２】読書指導の工夫

ア　考えたり想像したりしたことを更に深めたり広げたりさせるために，授業と連動した家庭学習（音読練習）の課題を提示する。

イ　主体的に物語文を読もうとする態度を身に付けさせるために，気仙沼図書館や本吉図書館と連携を図り，教材文に即した目的のある並行読書に繰り返し取り組ませる。

【視点３】学習環境の工夫

ア　「気仙沼スタンダード」に示されたユニバーサルデザインの考えに基づく学習環境づくりに努める。

イ　指導の効果を上げるために，文学的文章を指導する際に使う学習用語（「登場人物」「中心人物」「変容」「山場」「クライマックス」等）を共通認識の下で使わせる。

６　目指す児童の姿

文学的文章の構成の工夫や表現の効果に着目しながら物語の世界を楽しみ，
進んで読書活動に親しむ児童

下学年	上学年
・読み聞かせを聞いたり物語を読んだりして大体の内容や感想を伝え合うことができる児童。 ・図書室にある様々な物語に親しみ，物語のおもしろさを他者に伝えることができる児童。	・物語を読み，中心人物の変容に着目して大体の内容を説明したり，作者が読み手に最も伝えようとしていることを捉えたりできる児童。 ・図書室や本吉図書館にある詩や物語，伝記等の様々な図書に親しみ，自分が読み取ったことを基に他者と話し合ったり読書感想文を書いたりできる児童。

７　研究の内容と方法

（１）内容

①　主体的・対話的で深い学びの実現を図り，思いや考えを伝え学び合わせるための理論の整理

②　研究の視点に基づいた授業研究会の実施と検討

③　学習意欲を継続させる日常的な指導及び学習環境の整備

④　学力の変容についての調査

（２）方法

①　学習指導要領をはじめ，文部科学省や国立教育政策研究所等から示されている資料を分析し，主体的・対話的で深い学びの趣旨や指導内容，方法等について全職員で理解を深めるとともに，講師を招へいして主題に関わる内容の研修会を行い，理論と実践の往還を図り，教員の授業力の向上を目指す。

②　研究組織を生かして協働的に授業づくりに努め，授業研究会を行う。指導案を構想する段階においては，単元で扱う文学的文章が「中心人物の変容に着目して読む文学的文章」なのか「表現の効果に着目して読む文学的文章なのか」を授業者を中心に判断し，学習過程を工夫する。

③　昨年度末に全職員で作成した「発問の極意」及び「発問集」（別紙）を活用，改善を図りながらカリキュラム・マネジメントに務め，深い学びのある魅力的な授業を構想する。

④　幼保小・小中連携事業の充実に努め，互いの学校の研究授業を参観し，校内（園内）研究の重点について共通理解を図る。学力向上に向けた取組や研究成果物は津谷中学校と共有し，９年間に渡って学力向上を目指していく。

⑤　全国学力・学習状況調査並びに標準学力調査の結果の分析と考察を行い，学校全体で授業改善を展開していく。

（３）研究組織

校　　長

教　　頭

研究全体会

研究推進委員会
（校長・教頭・主幹教諭・教務主任・研究主任・研究副主任）

	授業改善推進部	学習環境部
下学年部	◎西條　熊谷直　田中　海原　熊谷佳 内海　佐藤　亀谷	◎内海　佐藤
上学年部	◎千葉　伊東　後藤　村上　菊地 小松　石垣　畠山	千葉　伊東

（４）３年間の研究計画

	令和２年度（１年次）	令和３年度（２年次）	令和４年度（３年次）
研究主題	確かな読みの力を身に付けた児童の育成		
副　　題	～主体的・対話的に文学的文章を読み取る授業実践を通して～		
主な取組	○研究主題・副題の設定 ・指導上の課題の整理 ・研究の方向性の確立 ・研究組織の立ち上げ ○研究の視点に沿った授業実践 ・授業研究会の実施 ・実践事例ポスト設置 ○小中連携事業の開発 ○宮城教育大学児玉教授を招いての研修会 （１１月３０日）	◎中間公開研究会（自主） ○実践研究の継続と発展 ・研究主題，副題の検討 ・研究組織の見直し ・手立ての検証及び精選 ○授業実践とカリキュラム・マネジメント ・年間指導計画の改善 ・「発問集」の開発 ○小中連携事業の拡大 ○標準学力調査の実施	◎公開研究会（自主） ○実践研究の継続と深化 ・研究主題，副題の検討 ・研究組織の見直し ・手立ての検証及び精選 ・宮城教育大学相澤名誉教授と児玉教授を招いた研修会 ○授業実践とカリキュラム・マネジメント ・「発問集」に基づく授業改善
授業改善推進部	○授業研究会の実施 ・「気仙沼スタンダード」の活用・検証・自校化 ・国語科の授業における指導上の課題の整理 ・学習用語の統一と共通認識の徹底 ○実践事例ポストの設置と活用	○授業研究会の実施 ・前年度の課題を受け授業改善の方向性を提案 ・授業チェックシートのの作成と活用 ・津谷中学校との合同授業研究会 ○標準学力調査（年２回実施）の結果の分析	○授業研究会の実施 ・前年度の課題を受け授業改善の方向性を提案 ・部会または全体での授業研究会並びに成果と課題の焦点化 ・津谷中学区での合同授業研究会 ○標準学力調査（年２回実施）の結果の分析
学習環境部	○ＵＤの考えに基づく学習環境の改善 ・ＵＤについての校内研修会（伝講等）の実施 ○教研式標準学力検査の実施と分析 ・今後育成を目指していく資質・能力の焦点化 ○家庭学習の充実 ・「がんばりっ子カード」の改善と活用 ・「ぐるぐる自主学習」の開始 ○学校ＨＰでの情報発信と地域連携	○ＵＤの考えに基づく学習環境の改善 ・豊かな言語感覚を育む掲示物の工夫 ○児童の実態調査アンケートの実施と分析 ・今後育成を目指していく資質・能力の焦点化 ○家庭学習の充実 ・「がんばりっ子カード」の改善と活用 ・「ぐるぐる自主学習」の継続 ○学校ＨＰでの情報発信と地域連携 ・研究成果の発信と普及	○ＵＤの考えに基づく学習環境の改善 ・豊かな言語感覚を育む掲示物の工夫 ○児童の実態調査アンケートの実施と分析 ・今後育成を目指していく資質・能力の焦点化 ○家庭学習の充実 ・「がんばりっ子カード」の改善と活用 ・「校内ミニ作文コンクール」の実施 ○学校ＨＰでの情報発信と地域連携 ・研究成果の発信と普及